

## 1 年目を振り返って

会員 川崎 陽菜

### 1 自己紹介

早いもので、弁護士2年目になりました。出身は大阪で法科大学院まで関西で過ごし、弁護士登録と同時に東京へ引っ越しましたので、東京生活も2年目になりました。慣れない土地ではありますが、日々刺激的な毎日を過ごしております。76期リレーエッセイの執筆という貴重な機会をせっかくいただきましたので、弁護士になって約1年と3か月の今、これまでの業務を振り返ってみたいと思います。

### 2 1年目の業務で感じたこと

この1年間、訴訟から任意交渉まであらゆる事件を担当させてもらいました。どの業務も当たり前ですが初めてのことばかりで、先輩方や同期に相談したり、とことん悩んだりしながら取り組んできました。先輩弁護士、パートナーから真っ赤になって返ってくる書面を見ては落ち込んでいましたが、次第に落ち込む暇もなくなり、改善点を確認しては次の業務へ改善点を確認しては次の業務へといった状況になりました。当初のことを思えば、少しは成長したと感じています。

昨年秋には国選事件で初めての公判がありました。事案としてはそこまで難しいものではなかったので、初公判、初被告人質問に少しわくわくしながら裁判所に向かいました。法廷に到着すると、そこには高校生が列をなして並んでいました。裁判所見学だそうです。わくわくしていた気持ちが一転、傍聴席満席で一気に緊張しました。刑裁修習で傍聴してきた刑事裁判の流れを何度も頭で反芻しました。しどろもどろな対応を見た高校生たちに「弁護士ってかっこ悪いからなりたくない」と思われ、未来の

法曹が減っては困ります。終始心臓はドキドキしていましたが、公判自体はトラブルなく終えることができました。ただ、今まですごく甘えていたのだなと実感しました。書面を作成するときも訴訟対応するときも、何かあれば先輩弁護士、パートナーがフォローしてくれるのだろうと頭のどこかで期待していたことに気づきました。このときから書面案は絶対修正させない、修正点などない、訴訟対応は一人で行っているのだという心意気で業務に取り組むようになりました。もちろん書面の修正などまだまだありますが、意識の変化は大切だと思います。

事務所外では会派活動、特に若手弁護士が開催する法律相談会に積極的に参加しました。事務所では会社からのご相談が多く、個人の方の法律相談を行うことはほとんどありませんでしたので、同席の弁護士の対応などを見ることができ大変勉強になりました。また、事務所の枠を超えて先輩弁護士の経験談などを伺うことができた点でも積極的に参加してよかったと思います。振り返ってみれば、充実した1年を過ごすことができました。

### 3 2年目の抱負

2年目になってまた新たな学びがどんどん増えると思います。この原稿が掲載される頃には77期の後輩も入所しています。私が75期の先輩方を頼もしく思っていたように、頼りになる先輩弁護士になれるかはやや不安ですが、どんな業務でも誠実に取り組んでいきたいと思っています。

また、姿勢改善、ストレス解消のため弁護士1年目から始めたピラティスやヨガには継続的に通い、心身共に健やかに過ごしたいと思っています。